

「近代日本の左翼的科学者の中国における活動～上海自然科学研究所員小宮義孝を例に～」

東華大學副教授

李 嘉冬

小宮義孝は近代日本の寄生虫学者。東京帝国大学医学部在学中、社会医学を志す。のちに、マルクス主義に傾倒し共産主義のシンパとして活動していたため特高にマークされ監獄に入れられる矢先に、恩師の横手千代之助・東京帝大教授の助けで1931年上海に避難し日本の文化事業の上海自然科学研究所に入所し終戦まで大陸の寄生虫病の研究に従事。戦後は中国政府の要請を受け寄生虫撲滅の建議案を提出し、その結果、長年中国の農村部で苦しめられた日本住血吸虫病がほとんど収まることになった。本発表は小宮の上海自然科学所員時代にスポットライトを当て、彼の上海での生活及び中国人科学者・学者たちとの交流実態を明らかにしようとするものである。